

公益社団法人

隊友船橋だより

平成30年 4月号 発行：千葉県隊友会 船橋支部事務局

“「しらせ」現役を引退した後もどっこい活躍中”

船橋港に係留中の“「初代しらせ」”について南極観測船としての現役を引退した後も、会社員（船）？として活躍中、



船橋支部の役員9名（丸山理事、河野理事、木村理事、数藤会員、窪理事、小倉理事、亀田理事、岡本事務局長、門脇理事）は、3月23日（金）14時～16時船橋港に係留中の南極観測船「初代しらせ」の研修を行った。

研修は、主に支部活性化の一端として「防災対策やイベントなどに活用できないか、船が現役引退後の活動は？」等について行い支部独自で防災訓練として船で自炊・宿泊をするには十分

数藤会員の熱心かつユーモラスな説明の開始。

ですが、イベント（宴会等）の利用については船内の階段や廊下は狭く、船内移動はやや難易です。

また、船に係留されている港湾ふ頭まで移動するためにはサッポロビール工場見学用無料バスの利用または、自家用車となり、敷地に入るには警備所でチェックを受けなければなりません。

ところで、この船の細部については、前回の「船橋だより」で「知っていますか？三代目の南極観測船が船橋港に係留されています。」というチラシの方で案内済ですので割愛しますが、



船内ヘリコプター格納庫での説明、熱中



日本が南極開始し、現在の基地のことなど

当船の管理会社（株）ウェザーニュースに勤務中であることから実行に移せたものです。説明は終始楽しく、ユーモアを交え現職時代の経験や知識などを踏まえ、

隊員の寝食や南極観測の歴史等について説明して頂き、なんといっても当支部の会員が生の経験や知識からの説明



船長さんになった気分を少々

人生？で現在は勤務中であり、まるで隊友会員みたいな親しみを覚えたのは筆者のみでしょうか

以上報告いたしました。今後希望があれば、ご家族、酒宴以外のイベント等について検討いたします。

（投稿、写真：門脇副支部長）

乗船者は、海上自衛官 170 名、観測専門隊員 60 名です。

案内説明役は、当支部の海自出身：二和・咲が丘分会「数藤忠彦氏」で、



床屋さんは自分たちでやるそうです。

は貴重なものとなりました。

「しらせ」は、本来海上自衛隊の所属で南極観測のために建造された船であり、無事退任をはたしやがてはスクラップとなる運命のところ、幕張に本社がある（株）ウェザーニュースの会長の計らいにより、気象観測船「SHIRASE 5002」として第二の



サッポロビールホールからの「しらせ」